

【産直用】アスパラガス病害虫防除暦及び防除日誌

R8 JA庄内たがわ
2025年12月16日時点の登録内容にて作成

提出日	月	日									
支所			生産者コード		氏名				確認		
収穫開始日	月	日	収穫終了日	月	日						

防除体系（登録薬剤）											
防除時期	種類	対象病害虫	登録農薬名	希釈倍数	水 100 ℓ 当り薬剤量	使用時期	使用回数	RACコード（※2）	備 考	☒	散布日
萌芽前	除草	1年生雑草	センコル水和剤	10a当たり使用量100～150g	－	萌芽前～萌芽始期	1回以内	H:5	全面土壌散布 散布量10a当たり100ℓ		
収穫中	殺虫	アブラムシ類・カメムシ類・ジウシホシクビナガハムシ・ヨトウムシ	アディオン乳剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:3A	発生がある場合	☐	月 日
	殺虫	アザミウマ類・カメムシ類・コナジラミ類・ジウシホシクビナガハムシ	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:4A		☐	月 日
茎枯病 防除徹底期間	① 立茎開始後直後	殺菌	褐斑病・茎枯病・斑点病	シグナムWDG	1,500倍	66g	収穫前日まで	2回以内	F:7 F:11	☐	月 日
	② ①の散布5日後	殺菌	褐斑病・茎枯病・斑点病	アミスター20フロアブル ※薬害注意(※1)	2,000倍	50ml	収穫前日まで	4回以内	F:11	☐	月 日
	③ ②の散布5日後	殺菌	茎枯病・斑点病	ICボルドー 66D (バイカルティ1000倍加用)	50倍	2,000g	収穫終了後	－	F:M01	☐	月 日
7月中旬	殺菌	疫病・褐斑病・茎枯病・斑点病	ダコニール1000	1,000倍	100ml	収穫前日まで	4回以内	F:M05		☐	月 日
	殺虫	アザミウマ類・アブラムシ類・カメムシ類・コナジラミ類・ジウシホシクビナガハムシ	モスピラン顆粒水溶剤(劇)	4,000倍	25g	収穫前日まで	2回以内	I:4A		☐	月 日
8月上旬	殺菌	茎枯病・斑点病	ペンコゼブ水和剤	500倍	200g	収穫終了後 但し秋期まで	6回以内	F:M03		☐	月 日
	殺虫	アブラムシ類・コナジラミ類・ジウシホシクビナガハムシ・ツマグロアオカスミカメ・ネギアザミウマ	ハチハチフロアブル(劇)	1,000倍	100ml	収穫前日まで	2回以内	I:21A F:39		☐	月 日
8月下旬	殺菌	茎枯病・斑点病	ICボルドー66D (バイカルティ1000倍加用)	50倍	2,000g	収穫終了後	－	F:M01		☐	月 日
	殺虫	オオタバコガ・ジウシホシクビナガハムシ・ハスモンヨトウ・ハダニ類・ヨトウムシ	コテツフロアブル(劇)	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	I:13		☐	月 日
9月中旬	殺菌	茎枯病・斑点病	フロンサイド水和剤	1,000倍	100g	収穫終了後 但し秋期まで	5回以内 ※3	F:29		☐	月 日
	殺虫	ジウシホシクビナガハムシ	エルサン乳剤(劇)	1,000倍	100ml	収穫3日前まで	2回以内	I:1B		☐	月 日
10月上旬～刈り取りまで(繰り返し)	殺菌	茎枯病・斑点病	ICボルドー66D (バイカルティ1000倍加用)	50倍	2,000g	収穫終了後	－	F:M01	茎枯病予防のため刈り取りまでICボルドー66D、フロンサイドSCの散布を2回繰り返し返す	☐	月 日
	殺菌	茎枯病・斑点病	フロンサイドSC	2,000倍	50ml	収穫終了後 但し秋期まで	5回以内 ※3	F:29		☐	月 日
他、登録薬剤	殺虫	ハスモンヨトウ	プレバソンフロアブル5	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:28		☐	月 日

※1 薬害の発生する恐れがある為、展着剤は使用しない。また高温時の散布を回避する
※2 RACコードとは薬剤（殺菌剤・殺虫剤・除草剤それぞれ）の系統の分類を示す。薬剤の効果を持続させるために同じ系統の剤は連用しない。
※3 同一成分の為、合わせて標記の回数まで使用可能

【その他使用薬剤】※上記防除暦と異なった計画防除で実施した場合などに下記の記入欄を活用下さい

登録薬剤名	散布日	登録薬剤名	散布日	登録薬剤名	散布日	登録薬剤名	散布日
	月 日		月 日		月 日		月 日
	月 日		月 日		月 日		月 日
	月 日		月 日		月 日		月 日
	月 日		月 日		月 日		月 日

除草剤		※【センコル水和剤・トレファノサイド乳剤を使用する際の注意点】土壌の乾燥が続く場合には、土壌散布は効果が低下しますので、雑草発生後に茎葉散布して下さい							散布日
防除時期	対象病害虫(雑草)	登録農薬名	使用量(10a)	使用時期	使用回数	RACコード (※2)	使用方法		
萌芽前	一年生雑草(ツリガナ科、ヤブタバコ科、キク科、アザミ科を除く)	トレファノサイド乳剤	200～300ml	萌芽前、収穫切後(雑草発生前)	1回	H:3	全面土壌散布 散布液量100ℓ/10a	月 日	
萌芽前	一年生雑草	センコル水和剤	100～150g	萌芽前～萌芽始期	1回	H:5	全面土壌散布 散布量100ℓ/10a	月 日	
萌芽前	一年生雑草	□ロックス	150～200g	萌芽前(雑草発生前～発生始期)	1回	H:5	全面土壌散布 散布液量70～150ℓ/10a	月 日	
収穫期	一年生雑草	バスタ液剤	300～500ml	収穫前日まで (雑草生育期萌芽前又は畦間処理)	合わせて 2回以内	H:10	雑草茎葉散布 散布液量100～150ℓ/10a	月 日	
収穫期	一年生雑草	ザクサ液剤	300～500ml	収穫前日まで (雑草生育期畦間処理)		H:10	雑草茎葉散布 散布液量100～150ℓ/10a	月 日	
収穫期	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	ナブ乳剤	150～200ml	収穫前日まで (イネ科雑草3～5葉期)	1回	H:1	雑草茎葉散布 散布液量100～150ℓ/10a (イネ科のみ効果)	月 日	

※【センコル水和剤・トレファノサイド乳剤を使用する際の注意点】土壌の乾燥が続く場合には、土壌散布は効果が低下しますので、雑草発生後に茎葉散布して下さい

【茎枯病重点防除期間】 一斉立茎の場合は、立茎の草丈が30cm以下での時点から重点防除を行う。だらだら立茎の場合も同様とするが収穫期間なので薬剤の使用時期に注意する。

【アザミウマの発生が多い場合】①ファインセーブフロアブル【劇】(2,000倍・収穫前日まで・2回以内) ②アドマイヤーフロアブル【劇】(2,000倍・収穫前日まで・2回以内) ③コルト顆粒水和剤(4,000倍・収穫前日まで・3回以内) ①～③の薬剤を5日毎にローテーション防除で対応
※IRACコード:①34 ②4A ③9B／②は日誌内にコードが重複する薬剤がある為注意。③は「ネギアザミウマ」のみの登録

【茎葉処理】 病害予防のために、積雪前に茎葉を地際から刈り取り、ほ場外で処分する。刈り取り後土壌表面をバーナー処理する。

【留意事項】 使用時期の「収穫の前日まで」とは、薬剤散布を終了した時刻より24時間を経過するまで、収穫出来ないことを示します。

※例) 6/15朝9時防除作業終了 → 次回収穫開始可能日時は、6/16朝9時以降より

【殺菌・殺虫剤の散布量目安/10a当り(300坪)】生育に応じて200～300ℓ 【展着剤】ワイドコート5000倍(水100ℓに20ml)を使用する

1. 病害虫の発生状況等を見て散布してください。
2. 適正な栽植密度とし通風・作業性をよくしてください。
3. 圃地の適切な排水管理に努める。
4. 病害虫の温床となるものについては随時、適切に撤去する。
5. ドリフト軽減ノズルや防薬ネットを使用しましょう。